

後期臨床研修プログラム

【救急部】

救急救命センターにおいて、救命救急に必要な知識と技術を修得する。

救急患者の処置法を学び、また厚生労働省、卒後臨床研修教育の到達目標にある基本的手技の中の小外科的手技などに関する知識と技術を学ぶ。

■プログラムの管理・運営と基本理念

救急部研修における多様な患者の診療経験から、研修医は緊急性と重症度の評価、緊急処置の知識と手技、入院の可否（disposition：患者処遇）の判断、他科医師への適切なコンサルテーション、などを習得することができる。救急室は、患者の診療をめぐる他科の医師と直接に接する機会を与える場でもある。

研修医は救急室での救急診療とともに、入院した救急患者の診療経験も持つべきである。このことによって、救急部外来での初期診療のフィードバックが得られ、また、医療全体の中に占める救急医療の意味を理解することが可能となる。

■一般目標

救急患者を診療する上で、医療人として必要な基本的態度を備えていることはとりわけ大切である。患者は症状が強く、または重症な場合が多いため、短時間で手際よく診療を進める必要がある。救急患者の診療に従事することで、医療面接、良好な患者・家族－医師関係の構築、適切な各診療科医師との連携、医療スタッフとのチーム医療、問題対応、安全管理、簡潔な症例提示、のいずれかにおいても高度な能力を養うことを目標とする。

■行動目標

生命や機能予後に係わる緊急病態、疾病、外傷に適切な対応をするために、

- ①バイタルサインの評価ができる。
- ②重症度および緊急度の評価ができる。
- ③一時救命処置（BLS = Basic Life Support）を実行でき、かつ指導できる
- ④二次救命処置（ACLS = Advanced Cardiovascular Life Support、呼吸・循環管理を含む）ができる。
- ⑤頻度の高い救急疾患、外傷、緊急病態（ショックなど）の診断と初期治療ができる。
- ⑥専門医への適切なコンサルテーションができる。
- ⑦入院の可否（disposition：患者処遇）の判断ができる。

■経験目標

A. 経験すべき診察法・検査・手技

1. 基本的な身体診察法

全身の観察、頭頸部、胸部、腹部、骨盤内、泌尿・生殖器、骨・関節・筋肉系、神経学的、精神面の診察ができ、記載できる。

2. 基本的な臨床検査

血液型判定・交差適合試験、心電図（12誘導）を自ら実施し、結果を解釈できる。また、一般尿検査、血算・白血球分画、動脈血ガス分析、血液生化学的検査、血液免疫血清学的検査、細菌学的検査・薬剤感受性検査、髄液検査、内視鏡検査、超音波検査、単純X線検査、X線CT検査、MRI検査、の適応が判断でき、結果の解釈ができる。

3. 基本的手技

基本的手技の適応を決定し、実施するために、気道確保、人工呼吸、心マッサージ、圧迫止血法、包帯法、注射法（皮内、皮下、筋肉、点滴、静脈路確保、中心静脈確保）、採血法（静脈血、動脈血）、穿刺法（腰椎、胸腔、腹腔）、導尿法、胃管挿入、局所麻酔法、創部消毒、簡単な切開・排膿、皮膚縫合法、軽度の外傷・熱傷の処置と包帯交換、気管内挿管、除細動の各手技が実施でき、ドレーン・チューブ類の管理ができる。

4. 基本的治療法

薬物の作用、副作用、相互作用について理解し、薬物治療ができる。輸液ができる。輸血による効果と副作用について理解し、輸血が実施できる。

5. 医療記録

診療録・退院時サマリーを POS にしたがって記載し管理ができる。処方箋、指示箋を作成し、管理できる。診断書、その他の証明書を作成し、管理できる。紹介状と紹介状への返信を作成でき、それを管理できる。

B. 経験すべき症状・病態・疾患

1. 頻度の高い症状のうち、以下のもの

全身倦怠感、発疹、黄疸、発熱、頭痛、めまい、失神、けいれん発作、鼻出血、胸痛、動悸、呼吸困難、咳・痰、嘔気・嘔吐、嚥下困難、腹痛、下痢・便秘、腰痛、関節痛、歩行障害、不安・抑うつ

2. 緊急を要する症状・病態

心肺停止、ショック、意識障害、脳血管障害、急性呼吸不全、急性心不全、急性冠症候群、急性腹症、急性消化管出血、急性腎不全、急性感染症、外傷、急性中毒、誤飲・誤嚥、熱傷、精神科領域の救急

3. 経験が求められる急性疾患・病態

- | | |
|---------------------|----------------------------|
| (1) 血液・造血気・リンパ網内系疾患 | (2) 神経性疾患・損傷 |
| (3) 皮膚系疾患 | (4) 運動器（筋骨格）系損傷 |
| (5) 循環器系疾患 | (6) 呼吸器系疾患 |
| (7) 消化器系疾患 | (8) 腎・尿道系（体液・電解質バランスを含む）疾患 |
| (9) 生殖器系疾患 | (10) 内分泌・栄養・代謝系疾患 |
| (11) 眼・視覚系疾患・損傷 | (12) 耳鼻・咽喉・口腔系疾患 |
| (13) 精神・神経系疾患 | (14) 感染症 |
| (15) 物理・化学的因子による疾患： | (16) 加齢と老化 |

